

＜参考資料＞
効果検証の深掘りに活用した主なデータ

<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

効果検証深掘りの概要

効果検証深掘りの目的

- ・利活用空間が各年代・属性からどのような認識をされていたかの把握
- ・利活用空間に求められるニーズ（利用目的・機能性）を把握

●アンケート調査(Web & 聞き取り)

- ・属性(職種×年齢)をもとに世代のライフステージに着目し、社会実験の評価や空間に対するニーズ・捉え方を分析

●アクティビティ調査

- ・社会実験期間中に利活用空間で増えたアクティビティの分析
- ・青葉通仙台駅前エリアに求められる機能の分析

●居心地調査

- ・社会実験期間前と期間中での居心地の良さがどの程度向上したかの比較分析
- ・社会実験期間中に居心地の良さが向上した評価理由の分析

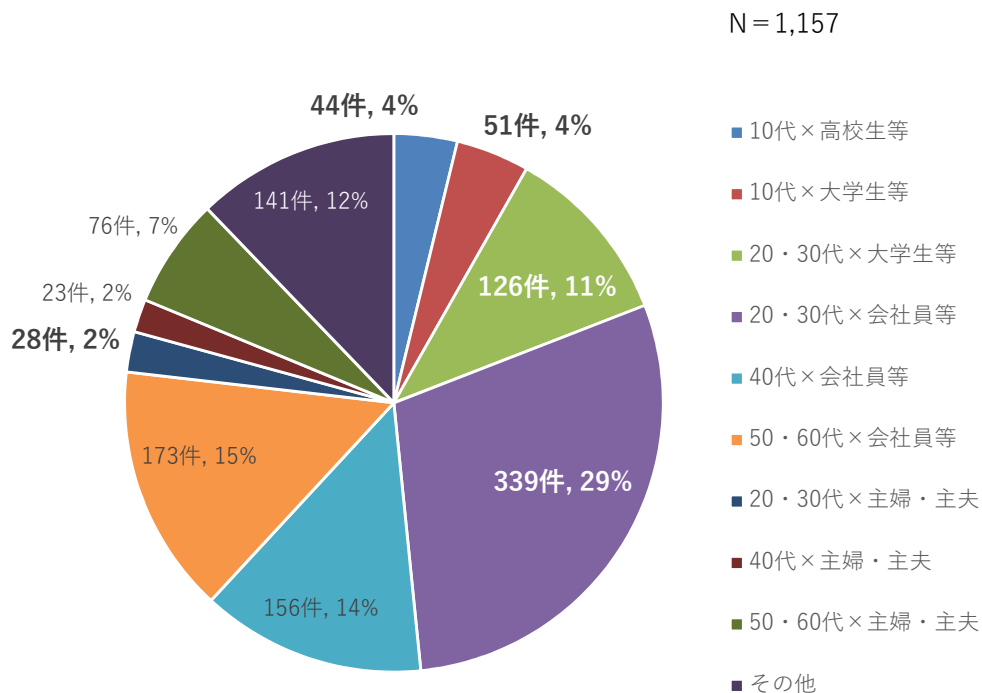
<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

アンケート調査

- 社会実験は主に学生や子育て世代の若者世代から高い興味・関心があった
- 利活用空間では、休める・くつろげる場所、飲食スペース、イベント実施、交流の機会、子どもの遊び場等が求められた
- 一方、社会実験の賑わいの持続性や、実装に向けた管理体制、他の未利用地の活用、実施目的に対する指摘も

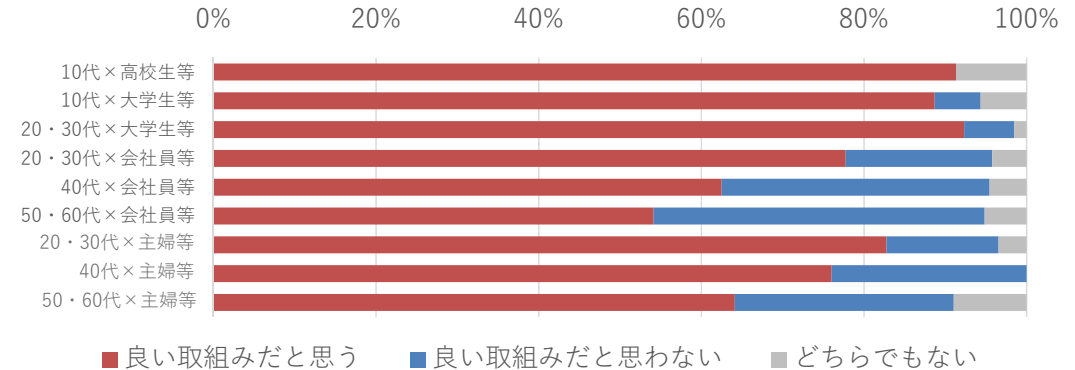
■来訪者の属性

※WEBアンケート、現地聞き取り調査の回答者のうち、「来訪した」と回答した人の属性



- 💡ポイント
【会社員等、他若年層】
・比較的若い年齢層10代～30代の来訪者数が多い

■社会実験の取組み評価は？



- 💡ポイント
・学生：全体的に社会実験に対して肯定的な回答が多い
・会社員/主婦・夫：年代が下がるにつれて社会実験への賛成票が増加

■利活用空間で実施したいことは？

- 💡ポイント
・各世代共通して、休める場所・くつろげる場所、飲食スペース、イベント実施、交流の機会、子どもの遊び場（主に20～40代の子育て世代）等が求められた

■社会実験の取組みを評価していない人の意見

- 💡ポイント
・学生：社会実験の賑わいの持続性や、休憩スペースの少なさを指摘
・会社員：20・30代は、実装に向けた管理体制、他の場所（未利用地等）の有効活用、社会実験の目的の曖昧さを指摘
40～60代は、弱者への配慮や交通面の指摘

<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

アクティビティ調査

- 社会実験期間中に利活用空間で発生した多種多様なアクティビティを分類すると、**「憩い」「遊び・余暇」「自己表現」「働く・学ぶ」「交通・ナビ」「交流」「飲食」の7つの機能**が抽出され、これらの機能のニーズが確認できた

① 憩い

寝そべる・ハンモックを使う・犬と休む・電話をしている・待っている・読む・子どもを見守る・芝生で転がる・写真を撮っている・景色を眺める・会話などの活動



② 遊び・学び

絵を描く・ゲーム・体を動かし遊ぶ・犬と遊ぶ・子どもの遊びなどの活動



③ 飲食

食べる・飲むなどの活動



④ 交通・ナビ

案内閲覧・受付をするなどの活動



⑤ 交流

ピアノを聴く・お笑いを見る・眺める・人を眺める・たき火を眺めるなどの活動



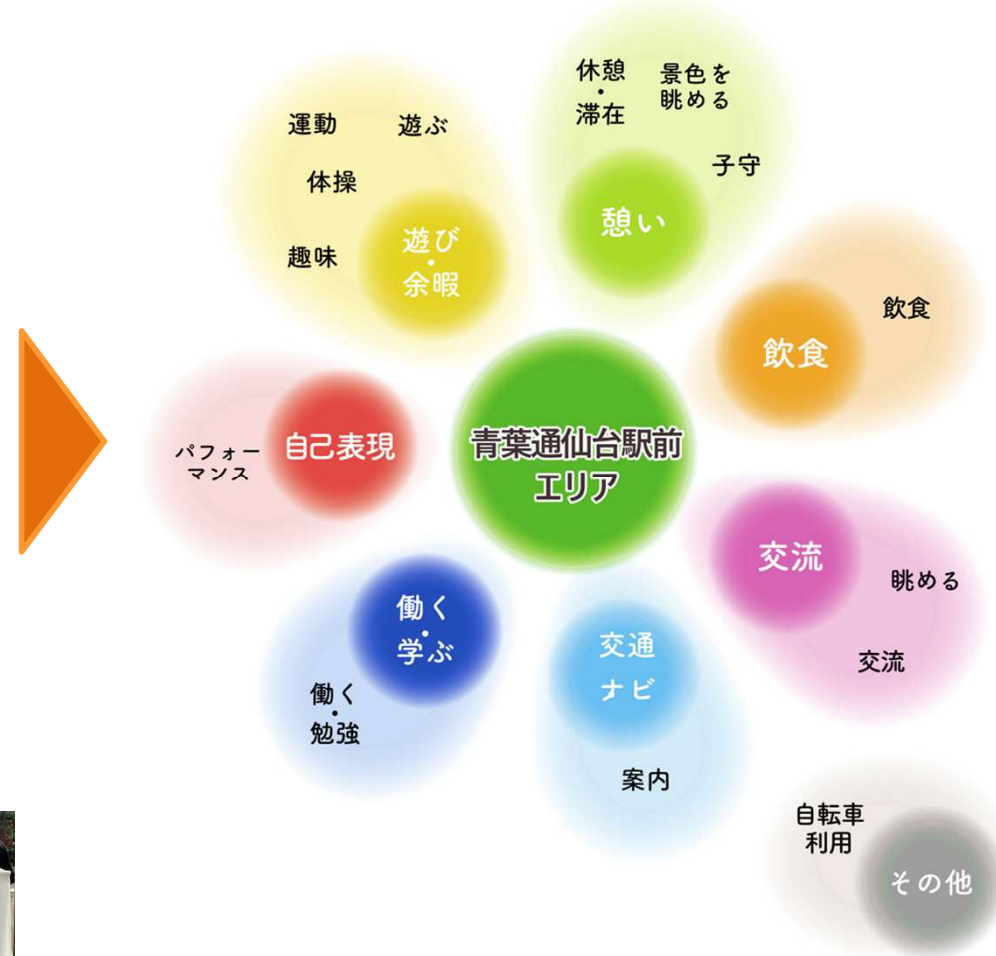
⑥ 働く・学ぶ

掃除・会議・パソコン・勉強・ゼミ活動などの活動



⑦ 自己表現

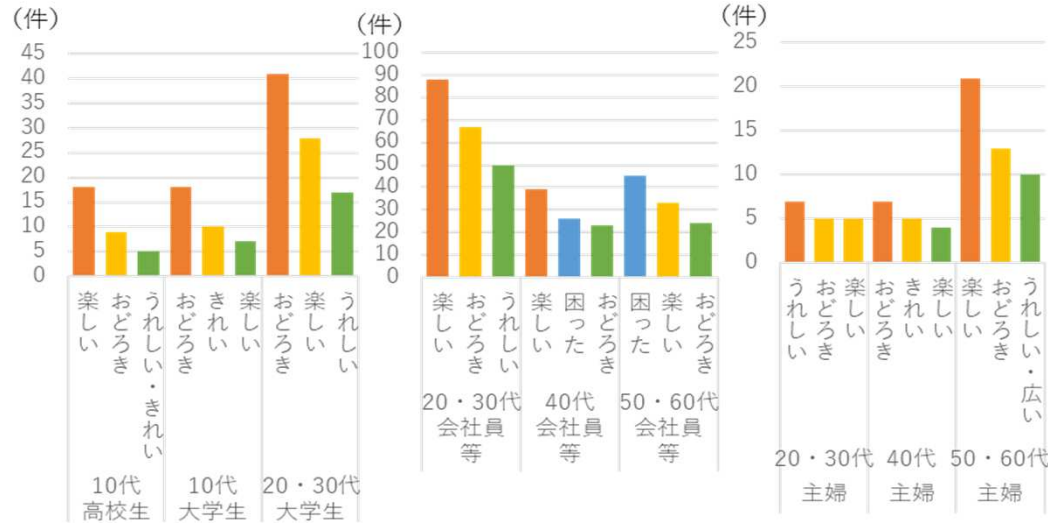
パフォーマンス・ピアノの演奏・三味線・ランウェイを歩くなどの活動



<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

アンケート調査

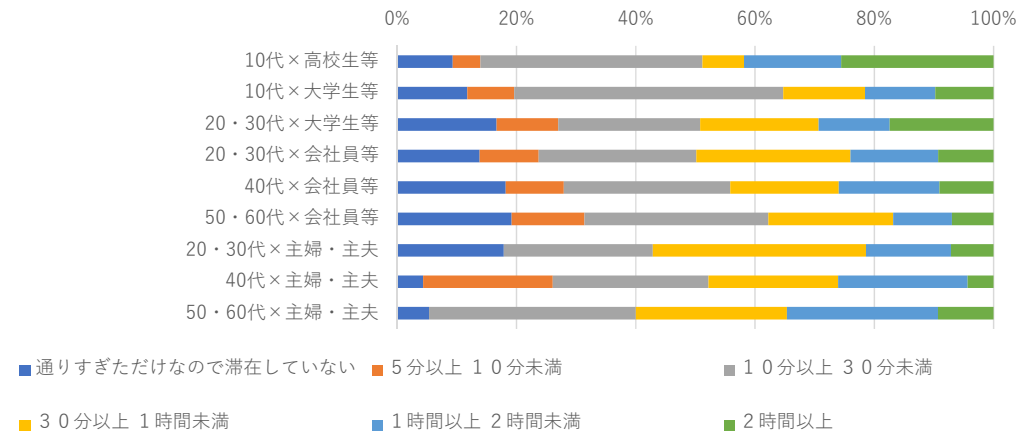
■来訪者時の印象は？



💡ポイント

- ・学生：大学生は、日常との変化に対して**おどろき・興味**を持っている
高校生は、空間の設えや**コンテンツ**等で**自身**ができて楽しかった経験
- ・子育て世代：**子どもが楽しそうであったことへの楽しさ・うれしさ**と、**ベビーカー利用時の段差・ベビールームの少なさに対する困惑**が挙げられた

■来訪者の滞在時間は？



💡ポイント

- ・学生：滞在時間は約半数が「30分以上」と高い傾向にある
- ・社員：年代が上がるにつれ、滞在時間は短くなる
- ・主婦・夫：年代に関係なく、全体的に滞在時間が長い

<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

居心地調査(国土交通省の指標に基づく)

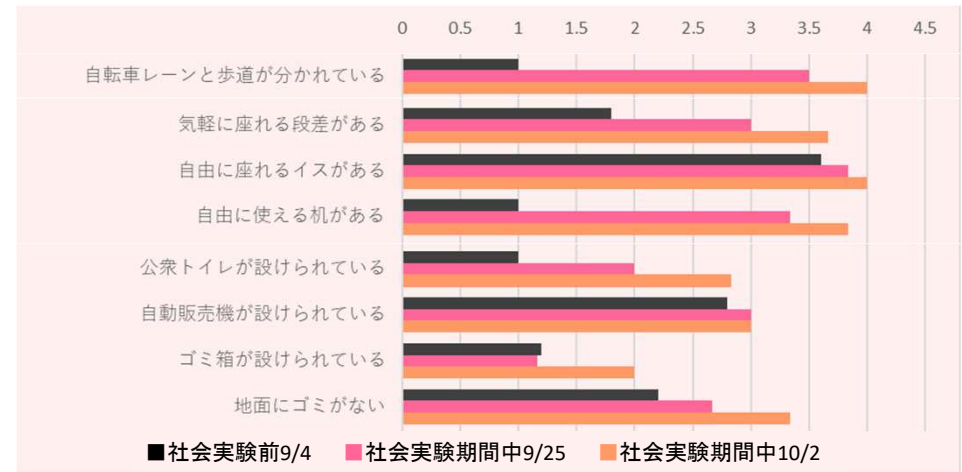
- 社会実験期間中に利活用空間を設けたことにより、平日・休日ともに「**ハード環境総合スコア**」と「**快適性総合スコア**」が大幅に向上した
- ハード環境総合スコアは、**歩行者と自転車の分離、自由に使える机・イス、トイレ、ゴミ箱の設置**により向上した
- 快適性総合スコアは、**座れることや、子連れが入りやすいこと、楽しそうにしている人が居ること**により向上した

○時間帯: 昼(12:00~13:00), 天気: いずれも晴

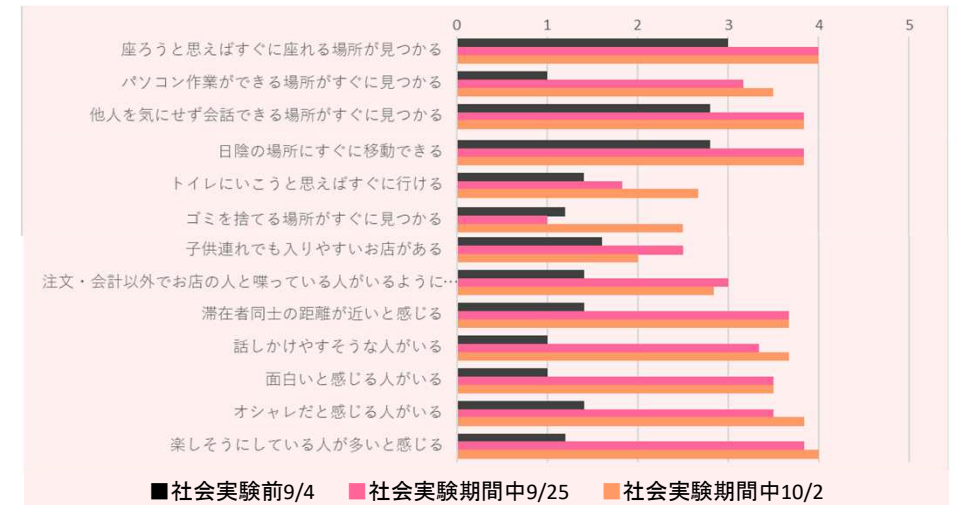
平日	実験前 9月7日	社会実験期中 9月28日	社会実験期中 10月4日
ハード環境総合スコア ※1	54.9	71.2	72.3
快適性総合スコア ※2	57.3	65.9	68.9
滞在者数	6	15	18
通行者数	27	25	51

休日	実験前 9月4日	社会実験期中 9月25日	社会実験期中 10月2日
ハード環境総合スコア ※1	54.7	64.7	72.5
快適性総合スコア ※2	51.5	69.6	73.4
滞在者数	9	135	90
通行者数	24	83	76

○休日昼のハード環境に関する項目ごとの比較(抜粋)



○休日昼の快適性に関する項目ごとの比較(抜粋)



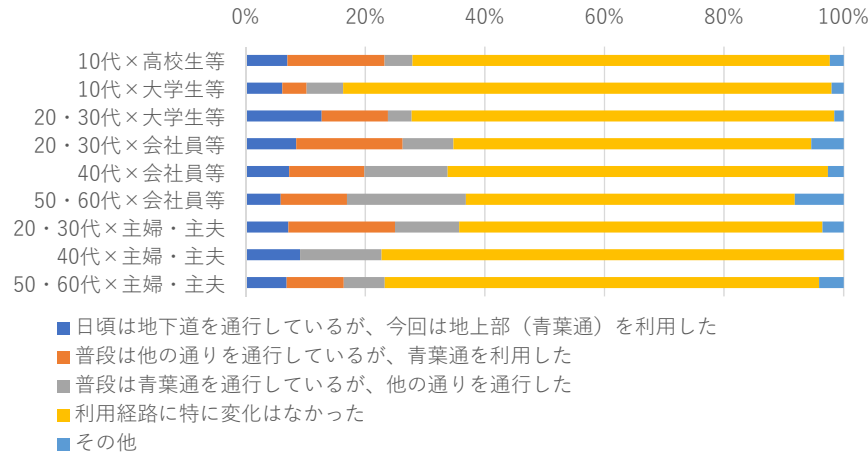
※1 34項目 1項目あたり最大4点、最低1点 満点 136点
 ※2 44項目 1項目あたり最大4点、最低1点 満点 176点

<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

アンケート調査

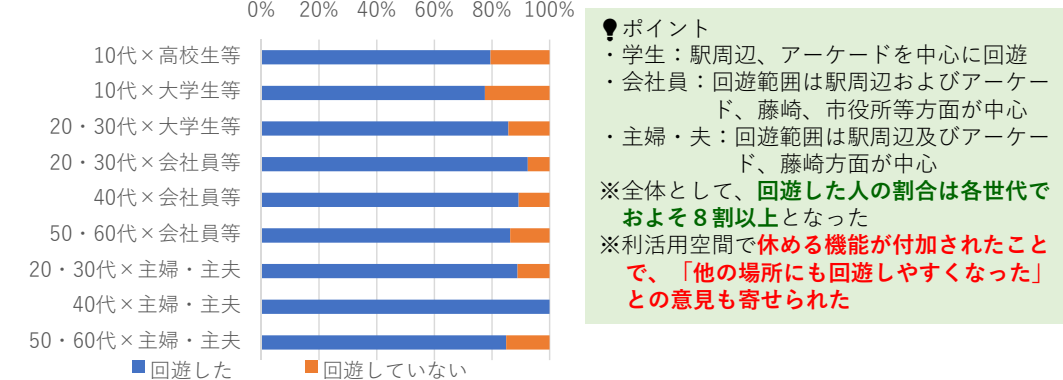
- ・ 利活用空間で休める機能が付加されたことで、「他の場所にも回遊しやすくなった」との意見も寄せられた
- ・ 当日のインタビュー等から、目的なく散策されている方が多数みられた
- ・ 会話等の交流だけでなく、場を囲む一体感を交流と捉える方も多数みられた

■社会実験中は青葉通駅前エリアを通りましたか？

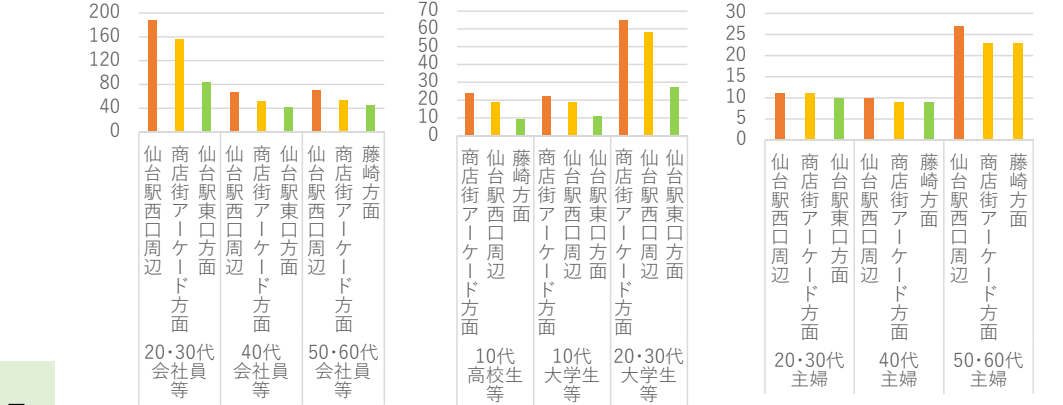


●ポイント
 ・20・30代の若者世代は、「青葉通を利用した」割合が他世代と比べて大きい
 ・40代～60代×会社員は、「他の通りを通行した」割合が大きい

■青葉通駅前エリアを訪れた前後に他のエリアを訪れたか(回遊したか)？



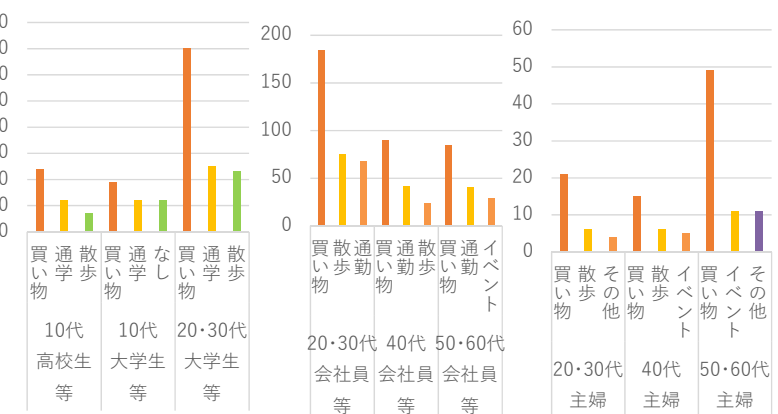
●ポイント
 ・学生：駅周辺、アーケードを中心に回遊
 ・会社員：回遊範囲は駅周辺およびアーケード、藤崎、市役所等方面が中心
 ・主婦・夫：回遊範囲は駅周辺及びアーケード、藤崎方面が中心
 ※全体として、回遊した人の割合は各世代でおよそ8割以上となった
 ※利活用空間で休める機能が付加されたことで、「他の場所にも回遊しやすくなった」との意見も寄せられた



■交流をもてたコンテンツは？

●ポイント
 ・全体：全体の層で「ストリートピアノ」による交流機会が多数みられた
 →会話等の交流だけでなく、場を囲む一体感を交流と捉える方も多数みられた
 ・学生：利活用空間の利用時に初対面でも自然と交流がうまれていた
 ・子育て世代：子どもたちの交流に言及
 ・40代～60代では、スタッフや学生との会話の機会になっていた

■他エリアを訪れる(回遊)目的は？

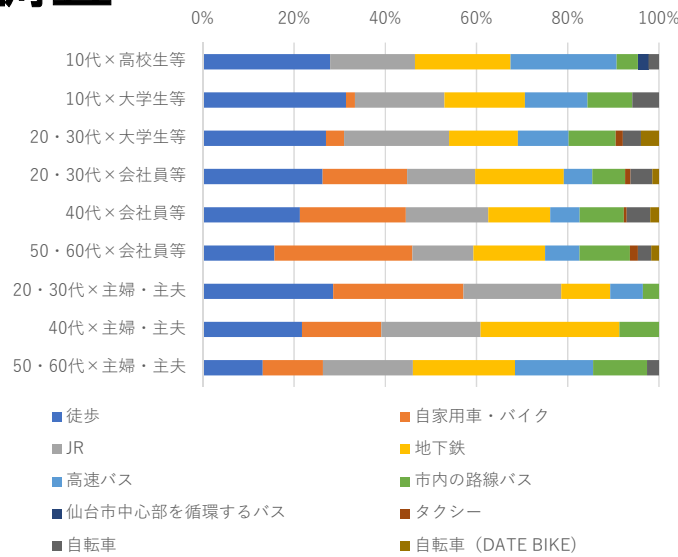


●ポイント
 ・各世代共通して「買い物」目的が特に多い
 ・通勤・通学だけでなく、「散歩」も一定程度確認できる
 →当日のインタビュー等から、目的なく散策されている方が多い印象

<参考資料> 効果検証の深掘りに活用した主なデータ

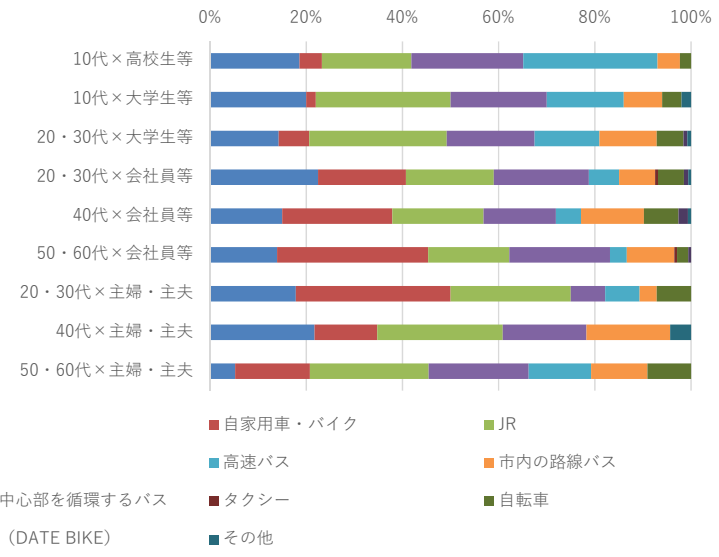
アンケート調査

社会実験時の来訪手段は？



ポイント
【学生】
 ・高校生、大学生は「徒歩」の割合が最も多い
【会社員】
 ・20～30代：「徒歩」が最も多い
 ・40～60代：「自家用車」が最も多い
【主婦】
 ・20～30代：「徒歩」、「自家用車・バイク」が多い
 ・40代： 「地下鉄」が多い
 ・50～60代：「地下鉄」、「JR」、「高速バス」が多い

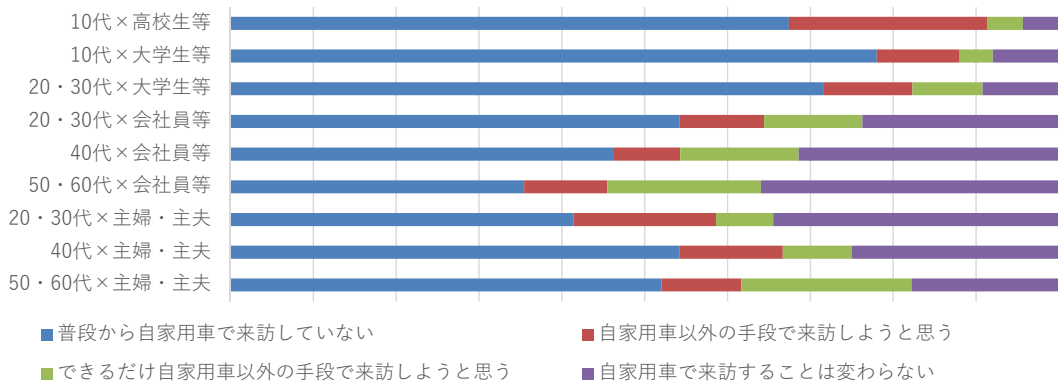
普段の来訪手段は？



ポイント
【学生】
 ・高校生：「高速バス」、「地下鉄」が多い
 ・大学生：「JR」、「地下鉄」が多い
【会社員】
 ・20～30代：「徒歩」が多い
 ・40代：「自家用車・バイク」が多い
 ・50～60代：「自家用車・バイク」が多い
【主婦】
 ・20～30代：「自家用車・バイク」が多い
 ・40代：「JR」が多い
 ・50～60代：「JR」が多い

自家用車以外での来訪の可能性は？

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



ポイント
【会社員】
 ・年代が上がるにつれ、「自家用車で来訪することは変わらない」との割合が高まる一方で、「自家用車以外の手段での来訪意向」は一定程度存在
【主婦】
 ・年代が高いほど、「自家用車で来訪することは変わらない」との意向の割合が高まる一方で、50～60代は「自家用車以外の手段での来訪意向」の割合が高い